

日本近現代史における「民主化の過程」を 吟味する学習の授業構成

— 主権者教育としての歴史的分野総括単元「民主化の道を拓く
：歴史から学ぶ私たちの課題」の開発 —

鳴門教育大学大学院 院生 安宅 彰 平

I. 本研究の目的と問題意識

本研究は、歴史的分野総括単元において「民主化の過程」を吟味するための主権者教育としての授業を提案・開発することを目的としている。

このような授業が必要な理由として、まず、従来の民主主義について教える社会科授業では、「民主主義の歴史的理解させることによって、民主政治を大切にしたい意欲や態度を身に付けさせよう」¹⁾とする学習が多く行われていたことが挙げられる。そのような学習では、生徒が持っている「民主主義」のイメージは固定化されてしまうことが多い。それは、生徒が「政治に関心を持つ必要性」を感じられなくなることにもつながると考えられる。そこで、歴史学習において、民主主義を批判的に吟味させ、民主主義のイメージを多面的にとらえさせる学習が必要であると考えた。

また、歴史教育における主権者教育のモデルが少ないことも理由として挙げられる。中学校社会科では、各分野での主権者教育の改善・充実が求められているが、従来の主権者教育の中心は公民教育であり、歴史教育においてはあまり実践例がなかった。そこで、本研究において「歴史教育としての主権者教育」の目標を示し、授業のモデルを提案する必要があると考えた。

II. 主権者教育としての歴史教育

本研究では主権者教育を掲げており、主権者教育をどのように捉えるかが重要になる。梅津正美氏は主権者教育を広義と狭義のレベルで捉えている。広義のレベルとは、主権者教育＝市民(のための)教育と捉える立場であり、狭義のレベルとは、主権者教育＝有権者(のための)教育と捉える立場である²⁾。本研究では、将来有権者となる子ども

たちを対象とする授業開発を目的としているため、主権者教育を狭義のレベルで捉え、授業を提案する。

次に、本研究における主権者教育の目標について、広義と狭義それぞれのレベルで捉えた主権者教育の目標を整理し、構想する。

広義のレベルでの目標については国立教育政策研究所によって提案された「21世紀型能力」を中心に考察し、狭義のレベルでの目標については、総務省「常時啓発事業のあり方等研究会」によって平成23年に出された『「常時啓発事業のあり方等研究会」最終報告書』(以下、「最終報告書」)を中心に考察する。

前者の「21世紀型能力」は、「基礎力」、「思考力」、「実践力」の3つから構成され、それらを3層構造で示している。後者の「最終報告書」は、主権者教育を「主権者として相応しい社会参加意欲や政治的リテラシーを育てる教育」と定義している³⁾。政治的リテラシーの内容は、主に、政治的概念の理解と政治的判断力及び批判的思考力の育成である。

以上を踏まえ、本研究における「有権者として必要な資質・能力」を図式化したものが図1である。



図1 「有権者として必要な資質・能力」のモデル図 (筆者作成)

このように図式化された主権者教育の目標のうち、筆者は「主権者教育としての歴史教育の目標」を「政治的概念の習得・活用を中心とした有権者として必要な資質・能力」と定義する。

Ⅲ. 主権者教育の視点からの歴史的分野の総括単元の位置と意義

平成29年に告示された中学校学習指導要領では、主権者教育の重視などを理由に歴史的分野の配当時間数が130単位時間から135単位時間へと変更されており、古代から近現代までの学習で既に主権者教育の視点からの学習が行われているようになる。これを踏まえ、総括単元での授業開発を行う必要がある。

また、学習指導要領等により、歴史的分野の総括単元では、これまでの歴史的分野の学習を踏まえつつ、公民的分野への接続を考慮に入れてテーマを設定し、現代の課題について考察・構想させるような学習を行う必要があることが分かる。

これらを踏まえ、政治的概念を習得・活用する過程に注目すると、歴史的分野の総括単元で行う主権者教育では、これまで学習した歴史的事象を、ある政治的概念を用いて説明できるようにすることでその概念を習得し、現在の社会的事象についても同様に説明できるようにすることで過去と現在を結び付けるといった学習過程になる。更に、その概念を用いて未来の社会を構想することにより、その概念の活用も達成できると考えられる。

以上を踏まえ、本研究で開発する単元で扱う政治的概念を、近代以降の日本の「民主化の過程」に設定し、その概念を習得・活用できるようにする学習を行うことにした。

また、歴史的分野の総括単元において「民主化の過程」という概念を習得・活用させる際に設定される課題として、「現在の日本の社会は民主化がされているのだろうか」、「これからの民主化はどのようなのだろうか」といったものが考えられる。本研究ではそれらの課題について考察・構想させるために着目させる視点として、「階級」、「政治的平等」、「社会的平等」の3つの下位概念を設定する。それらの視点からそれぞれの時代の社会を「民主化の過程といえるのだろうか」と吟味する

ことで、「民主化」についての認識が転換され、民主主義という概念を習得できると考えた。

Ⅳ. 教育内容としての「民主化の過程」の捉え方

「民主化」という言葉は、一般的に近代以降に誕生した代議制民主主義の政治体制の拡大のことであると理解されているが、その「民主主義」という言葉は論争的な概念である。代議制民主主義の歴史を考察し、社会諸科学で「民主化」という言葉がどのように議論されているのかを検討する。

そのために、代議制民主主義の構成要素である民主主義と議会について考察する。

民主主義のルーツは古代ギリシャの「民主政」であり、それは市民の意見を平等に政治に反映するためのものであった。しかし当時の民主政は、多数支配であるために衆愚政治に陥りやすいうえに、規模的に非現実的な政体という評価を受けていた。

議会のルーツは中世ヨーロッパの身分制議会であり、君主の権力を抑止する役割を持っていた。その後、社会契約説により国民議会が誕生し、代議制が成立した。代議制によって選ばれた少数は、一般的に言えば選んだ多数よりも徳において優れており、衆愚政治に陥る危険性がそれだけ軽減されると考えられる。しかし、有徳の代表を選ぶためには、選ぶ側に評価能力がなければならないので、その能力を形式的に判断し、選挙権を制限した。これが制限選挙である。

しかし、労働者や農民の政治への要求の増加などを背景に、その制限は徐々に撤廃され、普通選挙が行われるようになった。つまり、普通選挙は政治的格差の解消によって、社会的格差をなくすために導入されたものである。こうして、議会と民主主義は結びつき、代議制民主主義が成立した。

これは、日本の近代においてもほとんど同様の過程を歩んでいると考えられている。しかし、日本近代政治史学者の坂野潤治氏は、戦前の民主主義は「平等」を無視していたと評価しており、上記の民主化の過程を批判している⁴⁾。

以上を踏まえると、代議制民主主義は、有権者

の間に階級による政治的不平等はもちろん、社会的
的不平等がないことで成立するものであるが、そ
の平等は国民全員が政治に参加できる制度を整備
ただけでは成り立つものではなく、政治的平等
と社会的平等は常に同じように実現するものでは
ないということが分かる。また、民主主義という
のは「良いもの」として既に存在しているものでは
なく、市民によって守り続けていかなければなら
ないものであるということが分かる。しかし、
現在の社会科の歴史的分野の学習では、そのよう
に学習するようになっておらず、ここに教育的意
義があると考えた。

V. 先行研究の検討と政治的概念吟味学習の要請

1. 政治的概念学習の類型

歴史学習における政治的概念学習の内容と方法
に着目し、図2のように分類した。以下にそれぞ
れの特徴と課題を示す。

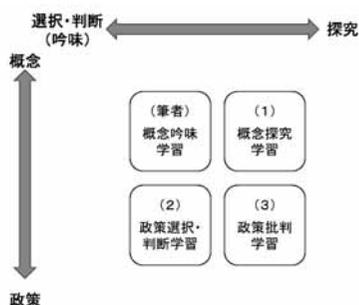


図2 政治的概念の学習の4類型 (筆者作成)

2. 概念探究学習

粟谷好子氏：単元「近代の普選実施」⁵⁾

この授業は、過去の選挙の有権者の投票理由に
ついて教師が問いを繰り返し、生徒がその答えを
探す過程の中で、「投票行動」という概念を習得
できるようになっている。投票について、生徒に
よる探究という方法をとることで、教師が一方的
に知識を教授する学習よりも概念の習得ができ
ると考えられる。また、有権者にとっての普通選挙
法の意味を理解したり、投票行動の基盤となる社会
認識を形成したりすることで、同時に概念の活用
も育成される。しかし、この授業では生徒が探究
するための資料や発問をすべて教師が提示して

おり、生徒の認識は教師による指導された討論に
より形成されるものになっている。また、生徒自
身が問題意識をもって学習に取り組めないことが
考えられ、課題が残ると考えられる。

3. 政策選択・判断学習

峰明秀氏：単元「田中正造のメッセージ」⁶⁾

この授業は、架空の論争問題・歴史上の論争問
題・現在の論争問題について様々な立場からの意
見について考えることで、意思決定能力を身に付
けさせようとしている。また、その過程でその背
後にある価値を読み取り、政治的概念を理解でき
るようになっている。しかし、この授業は政策の
判断に重点を置いており、政治的概念の習得は担
保できていない。また、概念の習得それ自体は無
批判に行われており、概念を批判的に受け入れさ
せる必要がある点が課題であると考えられる。

4. 政策批判学習

児玉康弘氏：単元「なぜ、イギリス国民は人民
予算案を選択したのか」⁷⁾

この授業は、組織化された発問によって、生徒
がイギリス国民の意思決定過程としての歴史を批
判的に解釈できている。教師による発問や資料が
中心ではあるが、教育内容に反事実的命題に依拠
した歴史の多岐性を導入することで、生徒自身に
歴史の可能性を考察させることができおり、解
釈を教授する授業よりも開かれた解釈が可能に
なっているといえる。しかし、この授業では授業
の中で興味深い資料等が多く扱われているもの
の、これにより、生徒は政策決定の背景をなす歴
史的な事象を詳細に理解することを求められるた
め、政策の意義・特質を概念的に理解したり、概
念を用いて吟味したりすることが不十分になるこ
とが考えられる

VI. 歴史的分野総括単元としての「民主化の過程」を吟味する授業開発

—単元「民主化の道を拓く：歴史から学ぶ私
たちの課題」の場合—

1. 授業構成論

本単元で設定する目標は、「態度目標」、「能力

目標」,「知識目標」に大別される。(下記, 教授書(試案)における単元の目標を参照。)

学習内容は, ①近現代の民主化の過程に関する学習と, ②現在と未来を構想する学習が中心となる。①では, 民主化の過程を吟味するために, 近現代において「一般的に民主化が進んだとされる事例」と「一般的に民主化が進まなかったとされる事例」を選択する。②では, 現在の民主化について吟味させるために, 資料を提示する必要がある。

授業過程は, 以下の3段階で組織される。

パート1：導入・吟味方法の確認
①導入
②吟味方法の確認
パート2：各時代の民主化についての批判・評価・議論
①導入
②民主化についての批判
③民主化についての評価・議論
パート3：現在の民主化の吟味・未来の社会の構想
①導入
②現在の民主化の吟味
③未来の社会の構想

パート1では, 学習課題が「民主化の過程」の吟味であることを把握させた後, 「階級」, 「政治

的平等」, 「社会的平等」の意味と民主化の過程を吟味する方法を確認する。

パート2では, 各時代の「民主化の過程」について資料をもとに批判的に認識した後, その時代が「民主化の過程なのか」について評価する。

パート3では, 現在の民主化について批判・評価をした後, それを踏まえてこれからの民主化について構想する。

2. 単元の展開

以上の構成論をもとに作成した授業の構成が以下の教授書である。本単元では「民主化の過程」の吟味のため, 学習する内容は「明治時代の議会」, 「大正デモクラシー期の普通選挙」, 「総力戦体制下の町内会」, 「戦後の男女普通選挙」など政治的・社会的平等にかかわるものになる。

単元は6時間で構成し, 授業展開は以下のようになる。

パート1 … 1時間

パート2 … 4時間

パート3 … 1時間

小単元「民主化の道を拓く：歴史から学ぶ私たちの課題」の教授書(試案)

1. 小単元名 「民主化の道を拓く：歴史から学ぶ私たちの課題」
2. 単元の位置 歴史的分野 内容「C 近現代の日本と世界 (2) 現代の日本と世界」
3. 単元の目標

①態度目標

(1) 「民主主義」について既習事項を活用して, 日本の近現代史における「民主化の過程」を吟味し, 自分の行動を省察することにより, よりよい民主主義社会のあり方について考えることができる。

②能力目標

(1) 民主化の過程を吟味し, 社会を「階級」, 「政治的平等」, 「社会的平等」という視点から捉え説明することができる。

③知識目標

〈概念的知識〉

- (1) 政治的諸制度が整備され, 政治的平等が実現しても, 社会的に平等な社会が実現するわけではない。
- (2) 民主主義は完成されたものとして存在するものではなく, 市民の政治参加によって作られていくものである。

〈説明的知識〉

- (1) 自由民権運動期には, 国民が政治に参加できる制度が整ったが, 人々の間の社会的な平等は実現していなかった。
- (2) 大正デモクラシー期には, 政治的平等は進んだが, 政治に反映されたのは一部の国民の意思であった。
- (3) 総力戦体制下では, 政治的平等は制限されたが, 社会的平等が一時的に実現した。
- (4) 戦後の民主化政策により, 政治的平等はほぼ実現したが, それらは完全な社会的平等を実現させるものではなかった。
- (5) 現代も, 生まれた環境によって多くが左右される「階級社会」といえる。

4. 授業計画

時間	パート	教師の指示・発問	教授・学習活動	資料	生徒の応答・学習内容
第1時	① 導入・吟味方法の確認	<ul style="list-style-type: none"> これまでの歴史学習の中で、「民主化」という言葉を学んだのは、いつの時代だろう。 では、「民主化」という言葉の意味を教科書から探そう。 この定義から考えると、江戸時代の社会は民主化が進んだ社会だといえるだろうか。 それはなぜだろうか。 では、日本の民主化はどこからはじまり、どのように進んだのだろうか。グループで話し合おう。 民主化がそのように進んだというのはあくまでも「評価」に過ぎません。この後学習する公民の準備段階として、これから「民主化の過程」を評価してみよう。 これから日本の「民主化の過程」を「平等」という点から評価します。その時代が平等かどうかをどのように評価すればよいか。 「階級」、「政治的平等」、「社会的平等」とはそれぞれどのようなものか。 それらの意味を確認しよう。 	<p>T：発問する。 S：答える。</p> <p>T：発問する。 S：教科書をもとに答える。</p> <p>T：発問する。 S：答える。</p> <p>T：発問する。 S：答える。</p> <p>T：発問する。 S：話し合い、発表する。</p> <p>T：説明する。</p> <p>T：説明する。</p> <p>T：説明する。</p> <p>T：説明する。</p>	教科書	<ul style="list-style-type: none"> 戦後 「組織の体制が、（中略）一人が強い権限を持つ体制から、多くの人が平等に権限をもてるような組織にすること」とある。 いえない。 江戸時代は、現在と異なり政治は全て幕府が行っており、将軍が強い権限を持っていた。また、職業による身分の差もあった。民衆の間に平等がないため、民主化が進んだ社会とは言えないのではないだろうか。 明治に始まったのではないか。 現在にかけて、徐々に進んだのではないか。 「階級」、「政治的平等」、「社会的平等」という3つの視点を用いて評価する。 「階級」とは、収入や生活態度、生活の仕方や意識などの違いによって分け隔てられたいくつかの種類の人々の集まりのことである。 「政治的平等」とは、市民が政治に参加することについての平等のことである。 「社会的平等」とは、政治とは別に、人々の間の収入や生活の面での平等のことである。
	② 吟味方法の確認	<ul style="list-style-type: none"> これは何の新聞記事だろう。 この記事にあるグラフから、トランプを支持していたのはどのような階級が多いのかを読み取ろう。 	<p>T：発問する。 S：答える。</p> <p>T：発問する。 S：資料をもとに答える。</p>		<ul style="list-style-type: none"> アメリカの大統領選でトランプが勝利した記事。 トランプが当選した理由を分析している。 白人労働者階級や比較的学歴の低い階級。

時間	パート	教師の指示・発問	教授・学習活動	資料	生徒の応答・学習内容
		<ul style="list-style-type: none"> この政策によって得をした階級や損をした階級はあるだろうか。 当時の社会は平等な社会であっただろうか。 	<p>T：発問する S：答える。</p> <p>T：発問する S：答える。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 地主など高い階級は得をしたが、普通の農民は損をしている。 当時の政治は、地主から支持を得られれば良かったため、地主のための政治を行っており、小作農などは損をするばかりだった。これは社会的平等とは言えないのではないか。
	③ 民主化についての評価・議論	<ul style="list-style-type: none"> 明治時代の民主化について、3つの視点をを用いて説明しよう。 明治時代に民主化は進んだといえるのだろうか。評価しよう。 このことについてグループで議論しよう。 	<p>T：説明する。 S：答え、発表する。</p> <p>T：発問する S：答え、発表する。</p> <p>T：議論を促す。 S：議論する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 明治時代には、国会が開設され、政治的平等は少し進んでいるように思える。しかし、それは制限選挙だったため、得をする階級が生まれ、社会的には不平等になった。 階級による格差が広がっており、民主化が進んでいるとは言えないと思う。 政治に国民が参加できている点で、少し民主化は進んだと思う。
3		(紙幅の都合上、第3時・第5時については省略)			
第4時	① 導入	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習では、「政治的平等」は進んだが、「社会的平等」が進まなかった例を学んだ。本時は、1930年以降の戦争の時期について評価しよう。 この時代に民主化が進んだというイメージはあるだろうか。 果たしてそれは本当だろうか。評価してみよう。 	<p>T：説明する。</p> <p>T：発問する。 S：答える。</p> <p>T：説明する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ない。
	② 民主化についての批判	<ul style="list-style-type: none"> 1938年に、近衛文麿がある法律を公布した。何だろう。 それはどのような法律だっただろう。 その後大政翼賛会が結成され、政党や団体はほとんど解散した。これを「政治的平等」という視点からどう評価できるだろうか。 当時政治を行っていたのは国民に選ばれた人ではなく、軍人でした。この点から、政治的平等はどのようになったといえるだろうか。 では、社会的平等はどうなっただろう。予想してみよう。 	<p>T：発問する。 S：答える。</p> <p>T：発問する。 S：答える。</p> <p>T：発問する。 S：考え、答える。</p> <p>T：発問する。 S：答える。</p> <p>T：発問する。 S：予想する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 国家総動員法 内閣が、国の産業や経済など生活の全てを戦争に動員できるようにし、議会在形だけのものになった。 国民の意思が政治に反映されなくなり、政治的平等は後退した。 政治家以外の国民が政治に参加できなくなったので、明治時代よりも遅れている。 これまで進んでいたが、元に戻った。 階級間の格差は余計に広がったのではないかな。 逆に平等になったのではないかな。

時間	パート	教師の指示・発問	教授・学習活動	資料	生徒の応答・学習内容
		<ul style="list-style-type: none"> •では、実際はどうだったのか見てみよう。次の資料から何が分かるだろう。 •なぜこのようなことが起きたのだろうか。考えてみよう。 •この状況は社会的平等という観点からみるとどのようだろうか。 	<p>T：発問する。 S：資料をもとに答える。</p> <p>T：発問する。 S：予想する。</p> <p>T：発問する。 S：答える。</p>	④	<ul style="list-style-type: none"> •高い階級とされた人と低い階級とされた人が同じ町内会に入り、同じ生活をしていた。 •総力戦だったので、勝つために国民が一つにならないといけなかったから。 •社会的平等が実現しているといえる。
	③ 民主化についての評価・議論	<ul style="list-style-type: none"> •戦時中の民主化について、3つの視点をを用いて説明しよう。 •総力戦体制下に民主化は進んだといえるのだろうか。評価しよう。 •このことについて、グループで議論しよう。 	<p>T：発問する。 S：考え、発表する。</p> <p>T：発問する。 S：答える。</p> <p>T：議論を促す。 S：議論する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> •総力戦体制によって階級関係が平準化され、これまで実現していなかった社会的平等が実現した。しかし、政治には国民が参加できなくなり、政治的平等はなくなった。 •社会が平等になった点で、民主化が進んだ。 •国民が政治に参加できていないので、民主化は進んでおらず、むしろ戻った。
5		〈紙幅の都合上、第3時・第5時については省略〉			
第6時	① 導入	<ul style="list-style-type: none"> •これまでの学習で学んだことを整理しよう。 •本時は、現在の民主化について評価してみよう。 	<p>T：発問する。 S：答える。</p> <p>T：説明する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> •民主化は、明治時代から現在にかけて徐々に進んだのではなく、政治的平等が実現すると、社会的平等が実現するというわけでもない。
	② 現在の民主化の吟味	<ul style="list-style-type: none"> •前回の授業で、高度経済成長期の日本は「一億総中流」と呼ばれていたと学習しました。現在の社会でもそうだろうか。 •次の資料を見て、現在の日本の社会的平等について説明してみよう。 •では、現在の日本の政治的平等については実現されていると思うだろうか。 •政治への参加というのは、選挙での投票だけではなく。他に政治に参加する方法にはどのようなものがあるだろうか。 •しかし、現在の日本の法律では、選挙に立候補するためには年齢以外の壁があります。何だろう。 	<p>T：発問する。 S：予想する。</p> <p>T：発問する。 S：答える。</p> <p>T：発問する。 S：答える。</p> <p>T：発問する。 S：答える。</p> <p>T：発問する。 S：答える。</p>	⑤	<ul style="list-style-type: none"> •現在の社会もほとんど平等だと思う。 •現実の社会には、金持ちもホームレスの人々もいるため、平等とは言えないのではないか。 •階級によって収入や意識が違い、労働者階級の間でも大きな格差がある。これは、社会的平等とは言えない。 •外国人には選挙権がないので、実現されているとは言えないが、日本人は、18歳を越えたら全員選挙権を与えられるので、実現されている。 •選挙に立候補する。 •供託金制度があり、衆議院議員選挙の小選挙区であれば、300万円払わなければいけない。

時間	パート	教師の指示・発問	教授・学習活動	資料	生徒の応答・学習内容
		<ul style="list-style-type: none"> • また、現在の政治家には親や祖父母が政治家だという「世襲議員」がいる。このグラフからどんなことが分かるだろうか。 • これらのことから、現在の政治的平等について説明してみよう。 	<p>T：発問する。 S：資料をもとに答える。</p> <p>T：発問する。 S：答える。</p>	⑥	<ul style="list-style-type: none"> • 世襲議員はどんどん増えている。 • 元々お金持ちであったり、政治家の家庭に生まれたりしなければ、政治家になることが難しい実態もあり、政治的平等が実現しているとは言えない。
	③ 未来の社会の構想	<ul style="list-style-type: none"> • 最後に、これまでの授業で評価してきた「民主化の過程」についてどのように理解したか、自分の考えをまとめよう。 • 民主化というのは勝手に完成するものではありません。そのために、未来の有権者として何ができるのか、今のうちに考えましょう。そして、それについて、さらに考えられるように、これからの公民学習に取り組みましょう。 	<p>T：発問する。 S：ワークシートにまとめる。</p> <p>T：生徒に問いかけながら、授業のまとめをする。</p>		<ul style="list-style-type: none"> • 民主化がまっすぐ進んできたという理解は修正すべきではないか。 • 私たちが政治に参加しなければ、民主化は完成しないのではないか。

【教授・学習用資料・出典】

- ①読売新聞朝刊，2016年11月10日
- ②坂野潤治『〈階級〉の日本近代史 政治的平等と社会的不平等』講談社選書メチエ，2014年，p. 38
- ③坂野潤治『明治憲法体制の確立—富国強兵と民力休養—』東京大学出版会，1971年，p. 194など
- ④雨宮昭一「総力戦体制と国民再組織—町内会の位置づけを中心として—」『現代社会への転形』（シリーズ日本近現代史：3）岩波書店，1993年，p. 368など
- ⑤橋本健二『新・日本の階級社会』講談社現代新書，2018年，pp. 82-83など
- ⑥飯田健・上田路子・松林哲也「世襲議員の実証分析」『選挙研究』26巻2号，2010年，p. 142

Ⅶ. 本研究の成果と課題

本研究の成果として以下の2点が挙げられる。第1に、これまで一面的に捉えられがちであった「民主主義概念」を多面的に捉えて単元開発を行ったことである。これは、間接的に政治参加意欲を高めることにも繋がり、主権者教育としての意義を持っているといえるだろう。第2に、歴史教育における主権者教育のモデルを示したことである。主権者教育は公民教育で行われることがほとんどであるが、歴史教育の中で民主化の過程を吟味することで、政治的概念を習得する授業を開発することができた。

本研究の課題としては以下の2点が挙げられる。第1に、本研究で開発した単元の実践を行うことができなかったことである。今後は実践を行い、それを踏まえて授業を改善する必要があると考えられる。第2に、本研究で開発した単元は、資料や発問を教師が一方的に提示していることである。基本的には生徒の思考による概念の習得を目指しているが、教師による価値の注入となってしまう可能性もある。この点についても改善の必要があるだろう。

【註】

- 1) 谷田部玲生「“民主政治”をめぐる新しい社会科授業への課題」片上宗二編著『“民主政治”をめぐる論点争点と授業づくり』明治図書、2005年、pp.157-159
- 2) 梅津正美「政策批判能力をもった『反省的な市民』の育成」『教育科学社会科教育 主権者教育—政治と公共を考える授業デザイン 6月号』明治図書、2016年、p.48
- 3) 常時啓発事業のあり方等研究会『「常時啓発事業のあり方等研究会」最終報告書』2011年、p.13
- 4) 坂野潤治『〈階級〉の日本近代史 政治的平等と社会的不平等』講談社選書メチエ、2014年、p.6
- 5) 栗谷好子「投票行動の基盤となる社会認識を形成する歴史授業内容開発—高等学校日本史・小単元『近代の普選実施』を事例として—」社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第28号、2016年、pp.111-120
- 6) 峰明秀「意思決定力を育成する中学校社会科歴史授業—単元『田中正造のメッセージ』の場合—」全国社会科教育学会『社会科研究』第50号、1999年、pp.271-280
- 7) 児玉康弘『中等歴史教育内容開発研究—開かれた解釈学習—』風間書房、2005年、pp.299-331

【参考文献】

- ・ 雨宮昭一『戦時戦後体制論』岩波書店、1997年
- ・ 雨宮昭一「総力戦体制と国民再組織—町内会の位置づけを中心として—」『現代社会への転形』（シリーズ日本近代史：3）岩波書店、1993年、pp.355-392
- ・ 加藤一誠「主権者教育としての歴史カリキュラム開発—理性的判断力の育成を目指して—」鳴門社会科教育学会『社会認識教育学研究』第31号、2016年、pp.11-20
- ・ 小熊英二『〈日本人〉の境界』新曜社、1998年
- ・ 国立教育政策研究所「社会の変化に対応する資質や能力を育成する教育課程編成の基本原則（教育課程編成に関する基礎的研究 報告書5）」2013年
- ・ 佐々木毅『民主主義という不思議な仕組み』ちくまブリタニー新書、2007年
- ・ 新川敏光・大西裕・大矢根聡・田村哲樹『政治学 Understanding Politics』有斐閣、2017年
- ・ 杉田敦『政治的思考』岩波新書、2013年
- ・ 杉田敦『デモクラシーの論じ方—論争の政治』ちくま新書、2001年
- ・ 千葉眞『思考のフロンティア デモクラシー』岩波書店、2002年

- ・ 橋本健二『新・日本の階級社会』講談社現代新書、2018年
- ・ 待鳥聡史『代議制民主主義』中公新書、2015年
- ・ 宮園衛「共生と対話を指向する歴史授業構成—『日本の歴史』に埋め込まれた境界線を超えて—」日本社会科教育学会『社会科教育研究』No.116、2012年、pp.70-80
- ・ 森政稔『変貌する民主主義』ちくま新書、2008年